

「事業名：「復興知」の総合化による食・農・ふくしま未来学の展開」 2022年度補助事業の実績・成果

福島大学 連携市町村：南相馬市、川内村、大熊町、飯舘村

連携市町村との協定締結日：2006年11月29日他 現地拠点：飯舘村飯樋字笠石140-1いいたて結び農園

事業のポイント

浜通りおよび福島県地域においてイノベーションを生み出す高度で加速度的な復興に寄与する人材の育成を目指し、「復興知」事業、「地(知)の拠点整備事業」(文部科学省COC事業)、地域実践特修プログラムを発展させて以下の取り組みを展開する。

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究
2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

福島大学と浜通り連携市町村の交流人数(延べ)

	福島大学		小中高生	社会人
	学生	教職員		
現地	778	261	532	72
オンライン	104	79	-	144
	882	340	532	216

今年度の活動実績

延べ学生882名、教職員340名、小中高生532名、現地社会人216名が参加

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

- ①いいたて結び農園等での栽培試験(6月8日～継続中)：教育プログラム構築の基盤に活用
- ②浜通り産炊飯米、蓄積構造解析を継続して実施、①・②の知見を基盤に「出前授業」を計4回実施
- ③「福島フォーラム」を、6回実施し、延べ291名の参加を得て、福島大学の研究成果を現地社会人等に教授

2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

- ①フィールドワーク(FW)・サービラーニング科目「むらの大学」はFWを29回実施、延べ259名の学生が参加
- ②「自主学修プログラム」(「むらの大学」関連)はFWを17回実施、延べ60名の学生が参加
- ③浜通り地域をめぐるスタディツアー「みらいバス」は10回実施、延べ128名の学生が参加
- ④学類を超えたプロジェクト学修は7件のプロジェクトに52名の学生が参加、FWを30回実施し延べ118名参加
- ⑤一部FWは「合同フィールドワーク」として13回実施、延べ114名の学生が参加

3. 大熊町分科会シンポジウムの開催

「大熊町民と5大学による町民シンポジウム」を主催し、各大学の取組について町民との意見交換を実施

今年度の成果

1. 食・農に関する国内外の復興知を集積・活用した専門教育と研究

昨年度に引き続き、作物のセシウム吸収機構、バイオ肥料の有効性試験、農業復興に係るニーズ等を中心に検討を行った。これらの成果は、大学・大学院教育プログラム構築の基盤の一部として活用され、「学類を超えたプロジェクト学修(本年度は7プロジェクト)」の内4プロジェクトは本事業成果を基盤に実施。

2. 全学を貫く地域実践特修プログラム「ふくしま未来学」の高度化

昨年度に引き続き地域での学修を積極的に行った。特に、FWの一部は大学4年間を通した人材育成基盤の構築と学生の意欲醸成のため「合同フィールドワーク」とした。また、学修効果の測定に用いるルーブリック評価を改善、授業動画も5タイトル10本の公開を準備するなど「福島型サービラーニング」の開発を進めている。



エゴマの栽培試験の様子。左がバイオ肥料施用区、右が対照区。バイオ肥料の施用により、生育が旺盛になった。



「復興知」を活用した出前授業の実施



自主学修プログラム
「学修成果物」